

VI. 自由記入意見の概要

VI. 自由記入意見の概要

1. 自由記入意見の分類ごとの傾向

自由記入意見は 954 人が回答し、延べ 1,000 以上の多種多様な意見が寄せられている。分類ごとに主な意見をまとめると次のような傾向が見られる。

①発生・排出抑制

○ごみの有料化について

- ・ ごみの有料化はごみの排出抑制につながると評価される一方で、ごみの有料化が不法投棄の増加につながると懸念する意見や、税金によるごみ処理を求める意見が見られる。

○レジ袋有料化について

- ・ レジ袋の有料化については、伊勢市での取組を含めレジ袋有料化を評価する意見がある。
- ・ レジ袋はごみ袋や様々な保管袋として有効に活用しているとの意見も見られる。

○暮らしの工夫によるごみ減量について

- ・ レジ袋の代わりにマイバッグを使用する、ペットボトルの代わりに水筒を持ち歩く、必要以上の買い物をしない、生ごみは堆肥化する、壊れた物は修理して使うなど、暮らしの工夫により様々な形でごみの減量に取り組んでいる人が多く、昔ながらのシンプルな生活を見直すべきだとする意見が見られる。

②分別・収集

○ごみの分別について

- ・ 表やパンフレットの配布などによるわかりやすい説明がほしいという意見が多い。特に高齢者や外国人、ひとり暮らしの男性などへの説明が必要とされている。
- ・ 市町によって異なる分別方法の統一や、分別の徹底を図るために記名式のごみ袋を導入する提案が見られる。

○ごみ出し・収集について

- ・ 高齢者等、ごみを収集場所（ステーション）まで持っていくことに負担を感じる方々に対しての配慮を求める意見が見られる。
- ・ ごみ出し・収集に関しては、多くの市町で資源ごみの収集が月 1 回程度と限られているため、収集回数を増やすか、いつでも資源ごみが出せるようなステーションを身近な場所に設けてほしいという要望が見られる。

○ごみ収集後の処理について

- ・ ごみ処理については、ごみが収集後どのように処理され、また、リサイクルされるのか、それらの費用はどのくらいかかるのか、分別の成果はあるのかなど、様々な情報を求める意見が多い。
- ・ ごみをリサイクルすることによる費用面、環境面などでの負荷を懸念する意見も見られる。

③経済活動

○ごみを出さない製品づくり・商品販売について

- ・ 自由記入意見で最も多いのが企業の製品づくり・商品販売に関する意見である。使い捨て商品の販売や過剰包装、トレイの使用過多などを見直し、ごみを出さない製品づくりや商品販売といった企業努力を求める意見が多い。
- ・ リサイクルを促進し、不法投棄を抑制するため、デポジット制の導入を提案する意見も見られる。

○ごみの回収・処理に関する企業責任について

- ・ ごみの処理やリサイクルにかかる費用は消費者負担ではなく、製造者や販売者が負担すべきだとする企業責任に関する意見が見られる。

④意識・モラル

○一人ひとりの心がけについて

- ・ ごみの問題は一人ひとりの心がけが何より大切だとする意見が多く、実際にごみの分別・減量を心がけている人、自分にできることは努力したいという人が多い。

○マナー違反について

- ・ ごみ出しマナーの悪さ、ごみのポイ捨てや不法投棄の多さが指摘されている。

○教育・広報啓発活動について

- ・ ごみ問題に対する一人ひとりの意識を高め、自覚を促すためには、子どもの頃からの教育や様々な広報啓発活動が必要だと考える人が多く、そのための取組が求められている。

⑤ごみ対策全般

○ごみゼロ社会の実現について

- ・ 少しでもごみをゼロに近づけるよう減量に努めることが必要だとする意見が見られる。

○住民参加によるごみゼロ運動について

- ・ 行政だけでなく、住民参加による地域一体となったごみゼロ運動の取組が求められている。

○行政の姿勢について

- ・ 行政のリーダーシップに期待する意見が見られる。